

平成28年11月25日

久慈市議会

議長 中平 浩志 殿

平成28年度

久慈市議会「新政会」第2回視察研修報告書

新政会

会 長 澤里 富雄

幹事長 上山 昭彦

泉川 博明

山田 光

岩城 元

「新政会」会派視察研修を実施したので、次のとおり報告する。

1、 視察期間 ・平成28年10月26日（水）

2、 視察先 ・岩手県下閉伊郡岩泉町

3、 研修議員 ・澤里 富雄
・泉川 博明
・上山 昭彦
・山田 光
・岩城 元

4、 研修事項

- 平成28年8月30日岩手県に上陸した「台風10号」被害について
「台風10号被害にかかる岩泉町ボランティア活動及び被災状況と復旧状況」

視察研修内容

日 時	平成28年10月26日(水) 午前8時～午後5時
視 察 地	岩手県下閉伊郡岩泉町
視察先住所	岩手県下閉伊郡岩泉町尼額細入27
説 明 者	岩泉町社会福祉協議会災害ボランティアスタッフ
視 察 目 的	平成28年「台風10号被害にかかる岩泉町ボランティア活動及び被災状況と復旧状況」について

概要



- 被災住宅の裏側から泥を運び出すため、家屋脇に一輪車が移動しやすいように、ゴミとして廃棄する畳や廃材等を利用して通路を作った。

- 写真手前は、河川上流側となり、家屋に押し寄せた土砂が溜まった部分。



- 撤去土砂は、ひとまず隣接する河川敷内へ仮置きとする。

概要



- 樹木の根や様々な種類のゴミが汚泥と混じり合い掻き出すだけでも時間が掛かる。

- 住宅脇の埋もれていた水路も、汚泥を取り除き水が流れるようになった。



- 河川内水辺付近からの眺め。写真の直線部分まで水位が上昇した跡が残る。円内は、作業した家屋。

- 作業した地域より9 km程下流にある岩泉球場も地面から2メートルほどのフェンスに水位上昇の跡がある。



所感

私たち新政会の5名は、台風10号の豪雨により、甚大な被害を受けた岩泉町へ災害ボランティアとして参加活動してきた。

現地に到着後、岩泉町の社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターに申し込み、私たち5名と、塩釜より参加した女性ボランティアを含め6名でグループを組み、一輪車やスコップ等を送迎車両に積み込み、岩泉町内中心部から車で10分ほどの尼額地区の被災住宅に向かった。

活動場所に到着後、作業資機材を搬入し、被災住宅のご家族の方に作業個所や内容の確認を行い作業にかかったが、現地の立地状況は、小本川の河川敷に面しており、周辺のいたる所にガレキや土砂・流木等が散乱していた。

被災住宅では、すでに何度か災害ボランティアをお願いしており、内部は畳や床板等も剥がしてあり、泥だし等はだいぶ進んでいる状況であった。外壁には一階の軒下にまで浸水した痕跡や流木等によって破壊されたと思われる痕跡が生々しく残っており、隣接する小本川の平常時水位から想定すると、5～6m程度は高く、出水時の水流の勢いが感じられた。

久慈市の被害状況との違いは、久慈市内は内水面にあふれた浸水被害が甚大であったが、岩泉町の場合は、河川堤防や道路が崩壊し濁流が家屋等を呑み込みながら流れていたという、河川状況の違いによるものが大きいと感じられた。

ボランティア活動の作業内容は、隣接住宅や畑から建物裏に流れ込み外壁周辺に堆積している汚泥や土砂、流木等の撤去作業であった。

流出した泥に紛れたゴミ等全ての物が、混然一体となっており、スコップで簡単には掻き出せず、泥を鍬や熊手等で積み込みやすいように、解しながら運搬搬出作業を行った。また、運搬路も確立されているわけではないので、廃棄する板や畳を敷き詰め、通路を確保した後に搬出作業を始めなければならない状況であった。

作業に携わった住宅は、台風10号襲来当時、高齢なおばあちゃんが一人で暮らしており、被災後、娘さんのいる盛岡に避難したが、洪水により家財を流出し、大規模半壊したにも関わらず、被災した自宅に戻りたいと話しているとの事情を、娘さん夫婦からお聞きし、作業もなるべく建物や残った家財など、傷つけないような作業を心掛けた。

多くの被災者の心情を鑑み、自費で応援してくれる災害ボランティアの皆様に感謝と

敬意を改めて感じた。

当日の岩泉町災害ボランティアセンターの活動状況は、本部へのニーズ件数「32件」、ボランティア活動数「54名」となっている。現在は、11月1日より岩泉本部、小川、小本が統合され、本部のボランティアセンターでのみ受付を行っている状況である。

久慈市内での災害ボランティア活動や、岩泉町内の災害ボランティア活動に参加し、被災地の状況・被災者の声・被災ごみの分別集積・ボランティアセンターの運営・ボランティア参加者の気持ちなど、多くの得るものがあり、今後の議会活動において、災害時の対応や、その後の復旧・復興への対応に大いに役立つ、災害ボランティア視察研修となった。

また、災害ボランティアへの参加行程の中で、往路は、山根町から安家地区を通り、元村地区の被害状況・復旧状況を視察し、復路には、新聞・テレビ等で大きく報道をされている、老人保健施設や道の駅、岩泉乳業・野球グラウンド、被災ごみの大規模な集積場を視察した。

道の駅周辺にも路面から2mほどのカ所にも、水が流れた跡が残り、当時の流量の多さに驚かされた。災害ゴミを集積している場所は、相当の広さを確保しており、可燃ごみから土砂等まで各種災害ゴミが集積されていたが、以前会派で熊本地震における災害ボランティアとして活動した際の災害ゴミ集積場の数倍もの広さを感じられた。

それほど多くの災害ゴミであるが、多くは、土石と流木等が積み上げられているように見られたことから、山地などから流出した樹木や土石等が河川を経て宅地等へ氾濫した災害であるとゴミの種類からも感じ取られた。

これまでも幾度となく、大雨のたびに議論されてきたことではあるが、間伐や植樹など山林の適正な管理や河川の近隣にある住家や道路等の安全管理について、当市においてもさらに考察を深めていく必要がある。



